

公益社団法人東京都盲人福祉協会

令和5年度報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日)

活動ならびに事業報告

I 目の不自由な都民の福祉と生活向上等を目的とする事業

1. 更生援護事業

都盲福祉センター内に相談コーナーを設置し、各種相談に応ずるとともに助言指導に当たった。また的野碩郎副会長、吉田美奈子理事、大胡田誠氏を東京都障害者福祉会館に相談員として派遣し、各種相談に応じた他、各支部役員が各自治体の委嘱を受け、身体障害者相談員として、視覚障害者の更生援護、生活の指導に当たった。

2. 第55回東京都盲人福祉大会の開催

第55回東京都盲人福祉大会を調布市視覚障害者福祉協会との共催により、11月1日に調布市グリーンホール大ホールで開催、会員ならびに関係者約400名が参加し、当面する諸問題について宣言・決議を採択した。

3. 交通安全対策

目の不自由な都民の歩行の安全を確保するため、東京都福祉のまちづくり推進協議会に委員を派遣し、意見の反映に努めるとともに、ホームからの転落事故防止対策、歩行の安全確保のための対策推進を行った。

4. 重複障害者対策の推進

盲ろう重複障害者に対し点字 JB ニュースの無償配布を行った。

5. 各種保険の取扱

目の不自由な都民の福利を図るため、損害賠償保険について日視連を介して取り扱った。

6. 身体障害者ジパング倶楽部の斡旋

身体障害者手帳を有する、男性 60 歳以上、女性 55 歳以上に対する JR の身体障害者ジパング倶楽部制度への入会、斡旋を行った。

7. 目の不自由な都民の諸問題に関する調査研究事業

関係各方面から依頼された実証実験に協力するとともにアンケートに回答した。

8. 都内における視覚障害者団体および福祉団体との連絡調整に関する事業

【1】各区市との連携

都内各区市に設置されている視覚障害者団体(支部)との連携を密にするとともに情報交換を行った。

【2】関係団体との交流

NPO法人TOMOをはじめ、(公財)杉山検校遺徳顕彰会、(社福)日本視覚障害者団体連合、(公社)東京都身体障害者団体連合会など関係団体との連携を密にし、諸問題の解決に努めるとともに支援した。

【3】組織の拡大強化

都内各区市に視覚障害者団体を組織するとともに会員の増員に努めた。

9. 盲人用具の改善普及ならびに斡旋に関する事業

目の不自由な都民の便宜を図るため、盲人用具の紹介、斡旋を行った。

10. 点字出版・録音物の製作発受に関する事業

情報サービスの一環として、点字による印刷物を随時作成し配布した他、

点字使用の困難な目の不自由な都民を対象に録音物等を製作し情報サービスに努めた。

11. 目の不自由な都民への生活および福祉等の情報提供に関する事業

【1】点字東京の発行

機関誌「点字東京」第329号から同334号まで、点字、活字、メール、音声版で発行した。

【2】声の東京の発行

「声の東京」デイジー版を毎月発行した。

【3】日視連広報誌の配布

日視連発行の愛盲時報(活字版)および日視連アワー(音声版)、声の厚生(音声版)を各支部に配布した。

【4】各種通達の発行

各種連絡、諸事業の紹介伝達を行うため、都盲協発第1号から同125号までを発行、周知徹底を図った。

【5】メーリングリストの利用

都盲協メーリングリストを利用し、各種情報交換等を行った。

【6】ホームページの活用

本会活動について、ホームページを活用し啓発広報に努めた。

12. 目の不自由な都民に対する東京都の受託事業

東京都福祉局、保健医療局、政策企画局、教育庁の委託、補助による諸事業を実施した。

【1】点字による即時情報ネットワーク事業および電話ナビゲーション事業

【2】点字・録音刊行物作成配布事業(12回)

【3】施術者講習会事業

【4】広報東京都音声版作成配布事業(定例号12回、増刊号1回、特別号1

回)

【5】視覚障害者音楽教室事業(11回)

【6】家庭生活訓練事業(55回)

主な内容 料理教室、リズム体操、フラワーアレンジメントなど

【7】中途失明者緊急生活訓練事業

主な内容 歩行訓練、点字指導、家事、スマホ、パソコン訓練など

【8】盲青年等社会生活教室開催事業(青年36回、シルバー40回)

主な内容

(盲青年)陶芸、ブラインドダンス、身だしなみ、ヨガ教室など

(盲高齢)体操教室、講演会、囲碁など

Ⅱ 目の不自由な都民の職業対策を支援する事業

1. 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

就労継続支援B型事業所パイオニアを設置、点字シールの作成、広報東京都音声版等のコピー、モニター作業、点字用紙の古紙を利用した封筒製作・販売などを行った他、新宿区の緑化事業に協力し、花壇の整備管理に当たった。

2. 研修会の開催

はり・きゅう・マッサージ従事者の資質向上を図るため、講師にわしみや治療院院長譲矢正二氏、東京有明医療大学教授坂井友実氏、筑波技術大学名誉教授藤井亮輔氏、元都立文京盲学校教諭栗原勝美氏、筑波大学附属視覚特別支援学校教諭前田智洋氏を招聘し6回にわたり研修会を開催した。

3. リセット治療室の運営

東京体育館内にリセット治療室を開設、働く場を確保するとともに運営を行った。

4. はり・きゅう・マッサージ健保取扱の代行

はり・きゅう・マッサージの健康保険、後期高齢者医療等の取扱に際し、その便宜を図るための事務手続の代行を行った。

5. 保有証発行手続

無資格類似行為者の一掃を図るため、厚生労働大臣免許保有証を発行、はり・きゅう・マッサージ従事会員に呼びかけその手続きを行った。

Ⅲ 目の不自由な都民の教養・文化および スポーツ・レクリエーションに関する事業

1. 研修会の開催

2月8日 東武鉄道のご協力で踏切に関する研修会を行った。

2. スマホ・パソコン教室の実施

スマホ・パソコン教室を開催、緊急を要する視覚障害者を対象にスマートフォン、パソコンの指導を行った。

またデジタルサービス局による視覚障害者向けスマートフォン体験会を10月から2月までの間、4コース各4回行った。

3. 体育祭の開催

第32回東京都盲人体育祭を5月1日に六義公園運動場で行った。

4. 会員との懇談会

4月15日、12月23日、会員の要望や意見を聴取することを目的に都盲福祉センターで懇談会を開催、会員の意見の反映に努めた。

5. 徒歩訓練の開催

11月29、30の両日、中伊豆方面へ、1泊2日コース、日帰りコースで行った。

6. タンデムを楽しむ集いの開催

東京サイクリング協会のご協力の下、パレスサイクリングコースでタンデムを楽しむ集いを6月25日、10月22日、11月19日に開催した。

IV その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1. 全国音楽家演奏会の共催

日視連音楽家協議会第60回全国音楽家演奏会(3月16日 なかのZER
O小ホール)ならびに第61回音楽家協議会福祉大会に共催した。

2. 新年交流会の開催

1月22日、千代田区のアルカディア市ヶ谷で新年交流会を開催した。

3. 各部会活動

青年、女性、シルバー、体育の各部会を設置し、それぞれの特性に応じた部会活動を新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら推進した。

4. 各種事業の受託

日常生活に必要な情報を提供するため、東京電力、東京ガス、東京乗用旅客自動車協会などの委託を受け、点字シール、点字領収証などの作成に当たった。

5. 会員への弔意

会員の死亡に際し弔慰金を送り、哀悼の意を表した。

なお、本会ならびに東京都盲人福祉センターの運営に当たっては、正副
会長会、常任理事会をはじめ、理事会、支部長会を開きこれに当たった。

また、東京都における目の不自由な都民のための福祉施策充実のため、
東京都をはじめ、関係各方面に対し積極的な運動を推進した。